

2021年度 第1四半期 決算説明資料

保土谷化学工業株式会社

セグメント	事業	主要製品
機能性色素	有機EL材料	輸送材料、発光材料、PCR診断キット用材料
	イメージング材料	トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料
	色素材料	アルミ着色用染料、文具用染料、カラートリートメント用染料、食品添加物
機能性樹脂	樹脂材料	ウレタン原料、接着剤、剥離剤
	建築材料	土木・建築用の防水・止水材料、防水・止水工事
	特殊化学品	医薬・樹脂材料・電子材料用の各種中間体
基礎化学品	工業薬品	過酸化水素および誘導品、その他工業用基礎原料
アグロサイエンス	農薬	除草剤、殺虫剤、酸素供給剤
物流関連	物流関連	倉庫業、貨物運送取扱業

第1四半期

単位：百万円
表示：百万円未満切捨

連 結	2020年度	2021年度	前年同期比
売 上 高	10,353	10,173	▲ 180
営 業 利 益	2,260	1,571	▲ 688
経 常 利 益	2,396	1,702	▲ 694
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,068	858	▲ 210

為替レート

\$=107.38円
W=0.0883円

\$=109.80円
W=0.0982円

\$=ドル
W=韓国ウォン

・2022年3月期の期首より 「収益認識に関する会計基準」 (企業会計基準第29号)等を適用

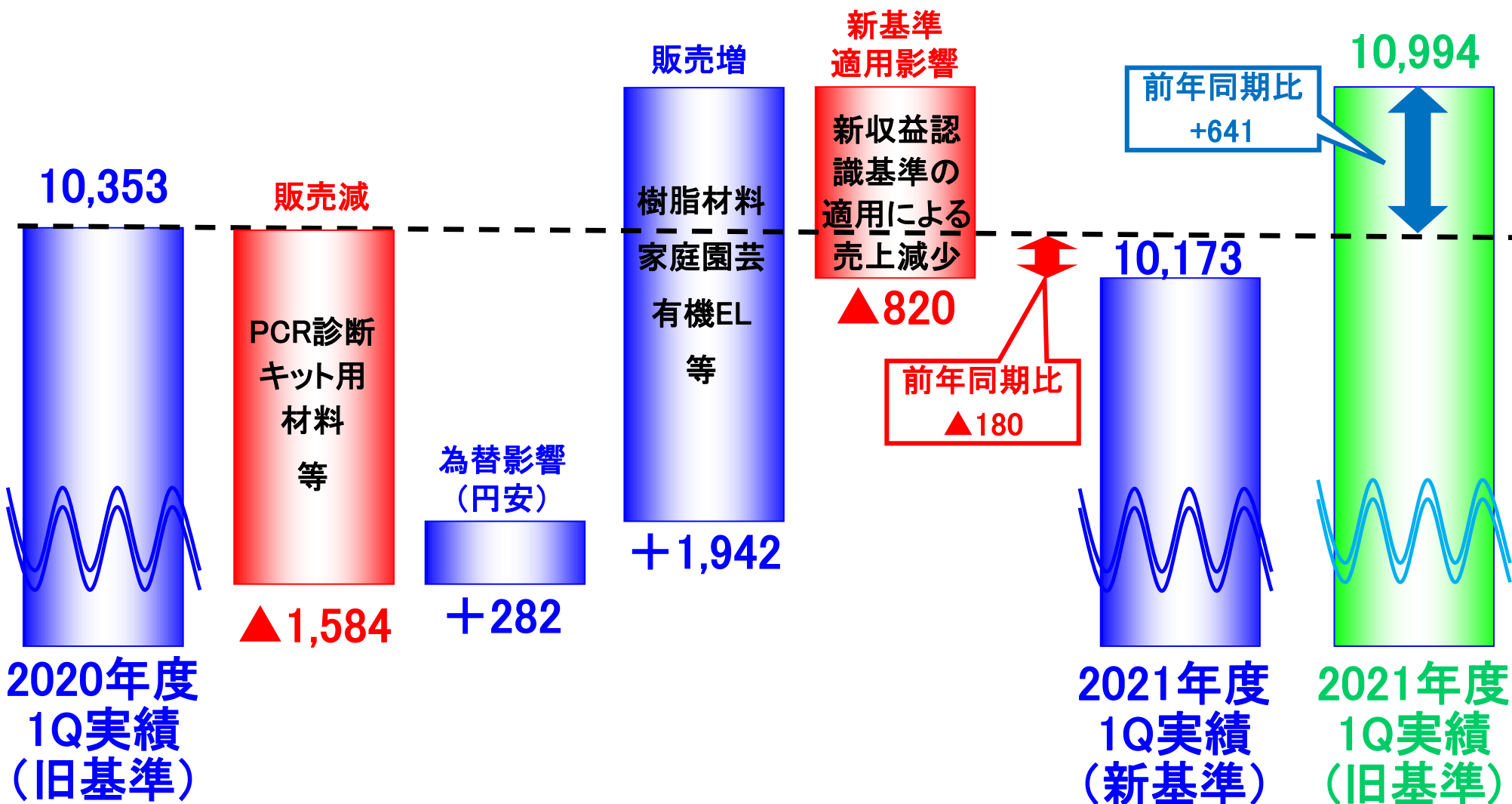
—2021年3月期:適用なし

—2022年3月期:適用あり

※当該基準適用により、

当第1四半期連結累計期間の売上高は
820百万円減少し、
営業利益、経常利益はそれぞれ
28百万円減少しております。

(単位:百万円)



- ・**売上高**は、機能性樹脂、基礎化学品、アグロ、物流関係が増加したものの、機能性色素が減少し、さらに、「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等の適用により、180百万円の**減収**
- ・**営業利益**は、販売構成差に加え、販管費の増加により、688百万円の**減益**
- ・**経常利益**は、主として営業利益の減少により、694百万円の**減益**
- ・**親会社株主に帰属する当期純利益**は、主として経常利益の減少により、210百万円の**減益**

(単位:億円)

科目	2021年 3月末	2021年 6月末	増 減
(流動資産)	300	307	+6
現預金	94	99	+5
売上債権	120	116	▲3
棚卸資産	83	87	+4
その他	3	4	+0
(固定資産)	325	320	▲5
有形・無形 固定資産	228	229	+0
投資有価証券	82	77	▲5
その他	13	13	+0
合計	626	627	+1

科目	2021年 3月末	2021年 6月末	増 減
(負債)	189	187	▲2
仕入債務	41	44	+2
有利子負債	74	71	▲2
その他	73	71	▲2
(純資産)	436	440	+3
資本金	111	111	-
資本剰余金	87	87	+0
利益剰余金	141	147	+6
その他	96	93	▲2
合計	626	627	+1

財務指標

・自己資本比率	61.8%	⇒	62.0%
・D/Eレシオ	0.19倍	⇒	0.18倍

有利子負債	74億円	⇒	71億円
現預金	94億円	⇒	99億円

第1四半期

 単位：百万円
 表示：百万円未満切捨

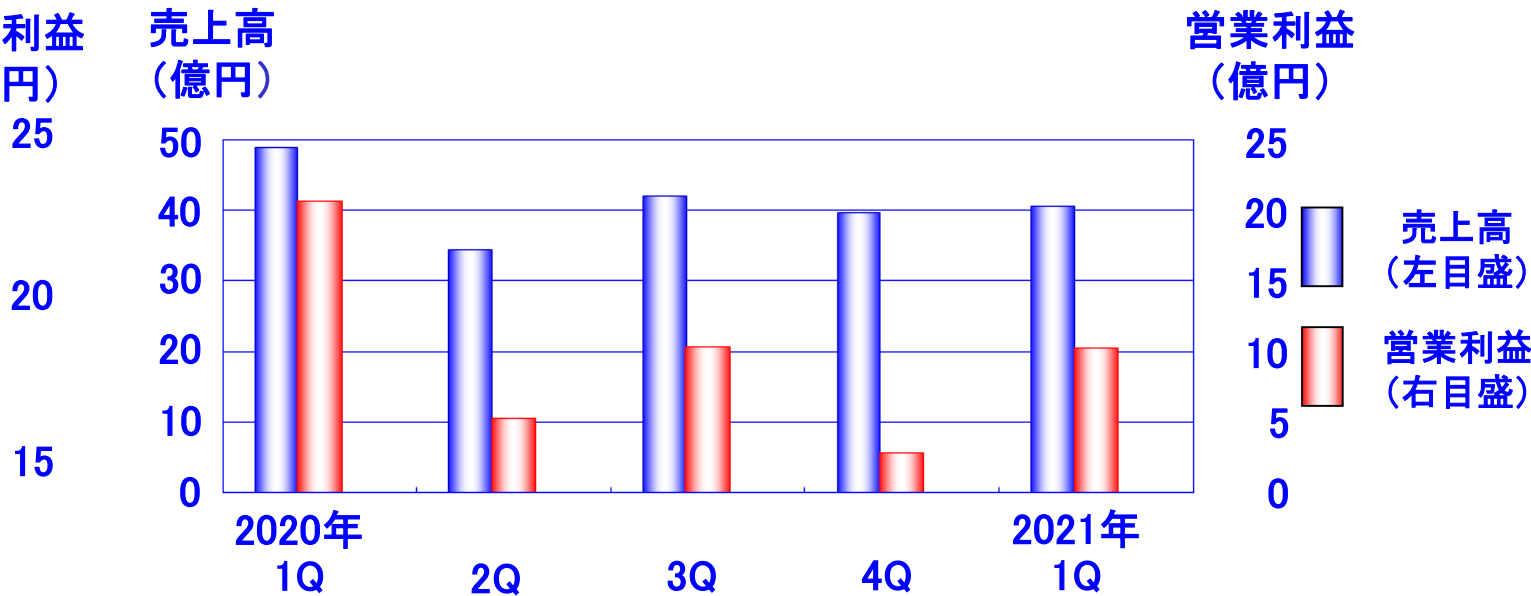
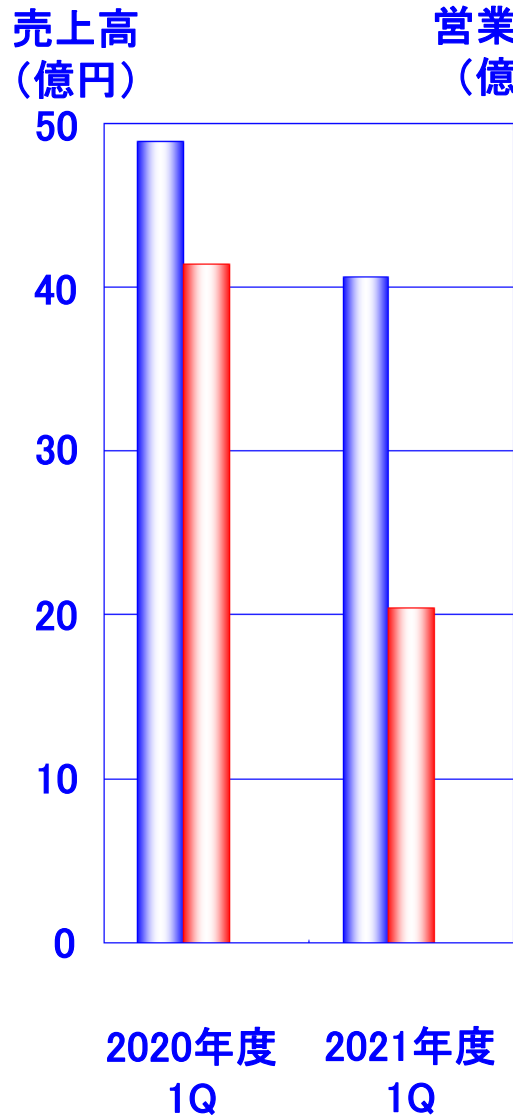
セグメント	2020年度	2021年度	前年同期比
機 能 性 色 素	4,886	4,058	▲ 827
機 能 性 樹 脂	2,272	2,666	+ 393
基 礎 化 学 品	1,621	1,720	+ 98
アグロサイエンス	1,088	1,215	+ 127
物 流 関 連	445	480	+ 35
そ の 他	39	32	▲ 7
合 計	10,353	10,173	▲ 180

第1四半期

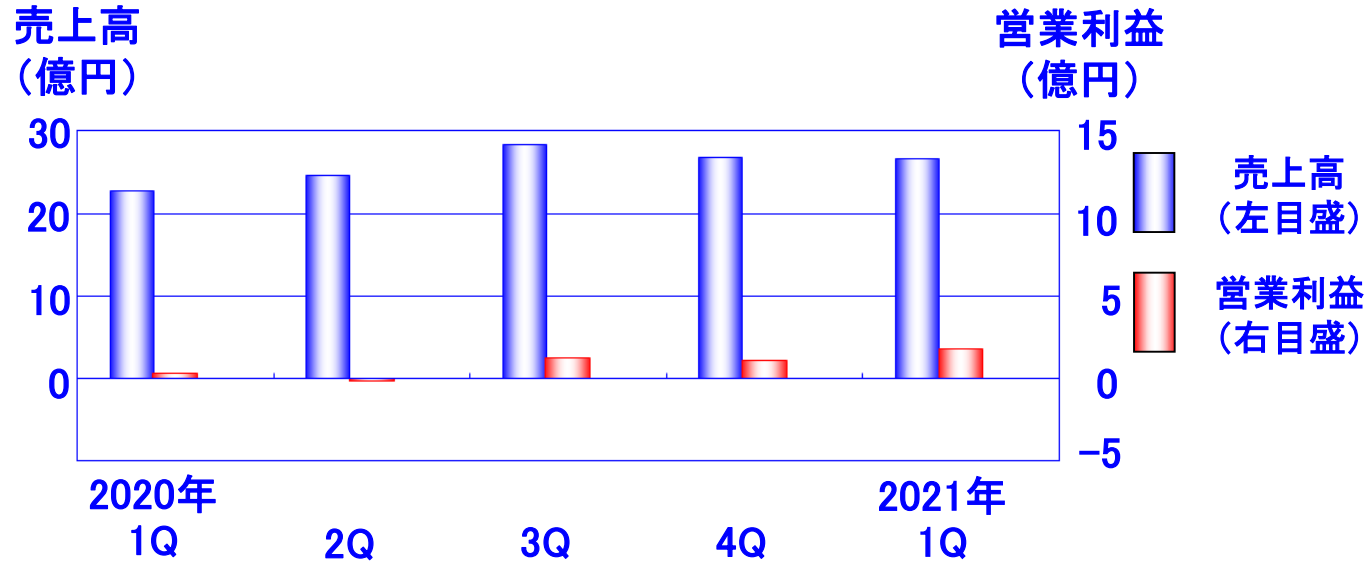
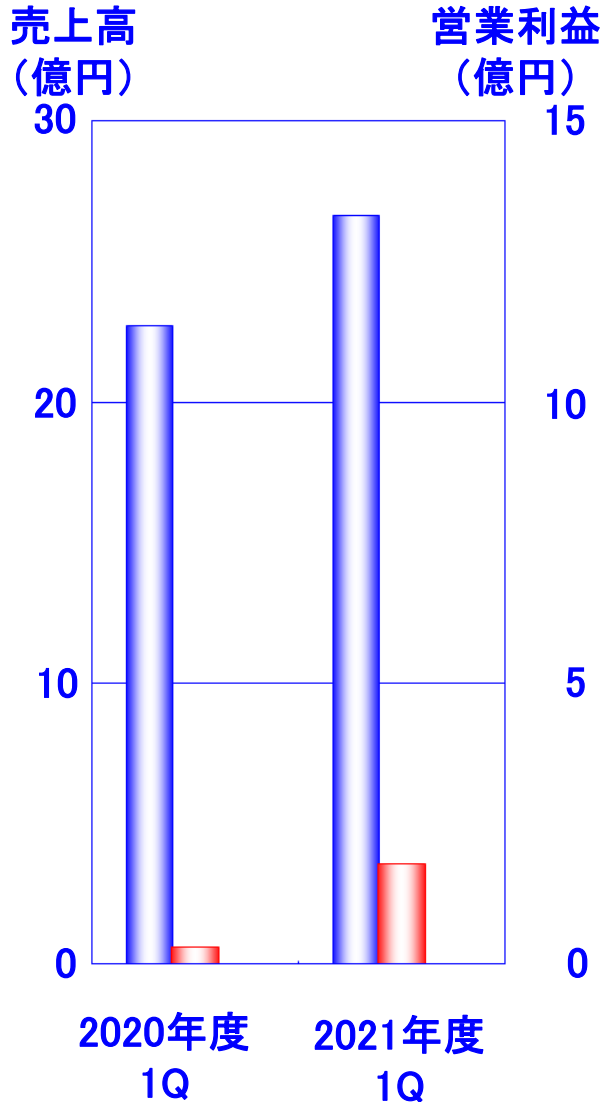
単位：百万円

表示：百万円未満切捨

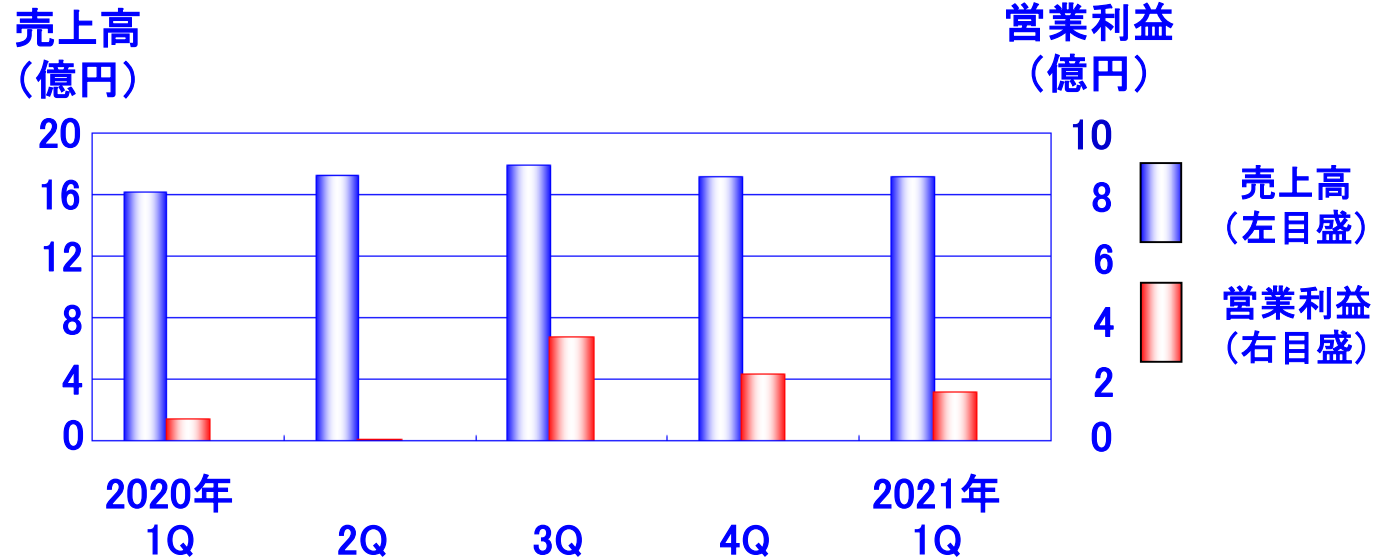
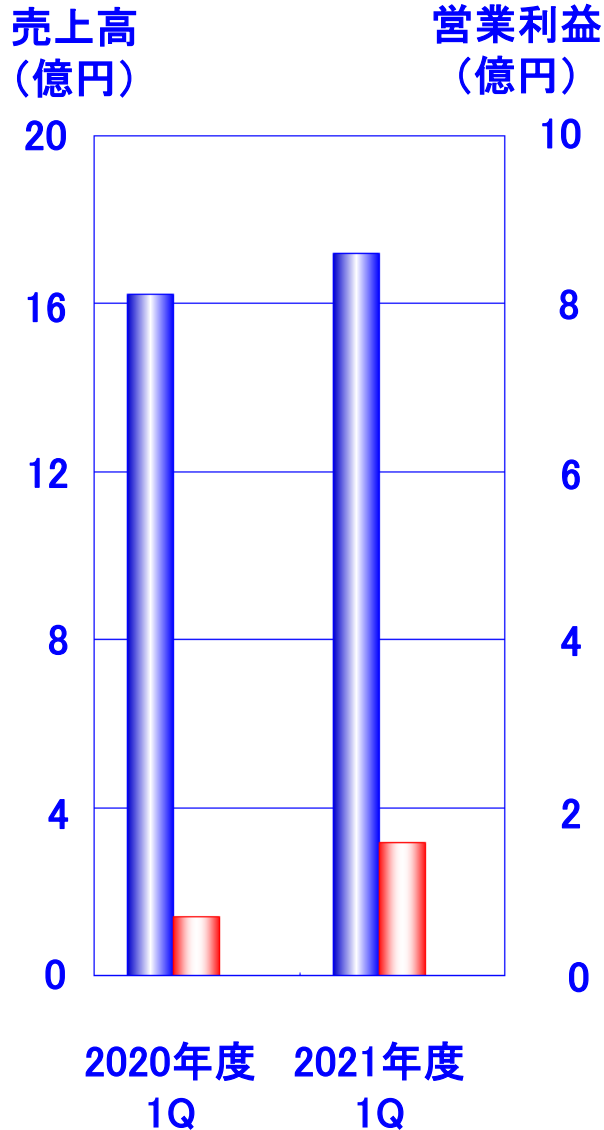
セグメント	2020年度	2021年度	前年同期比
機 能 性 色 素	2,068	1,021	▲ 1,046
機 能 性 樹 脂	29	178	+ 148
基 礎 化 学 品	70	158	+ 87
アグロサイエンス	5	123	+ 118
物 流 関 連	80	96	+ 16
そ の 他	5	▲ 6	▲ 11
合 計	2,260	1,571	▲ 688



有機EL材料	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン向けディスプレイ分野において、液晶から有機ELへの切り替えが加速したこと等から、需要が引き続き増加。 一方、当社の子会社において有機EL材料の用途展開を図ったPCR診断キット用材料が、前年度のコロナ禍の特需から一服し、有機EL材料事業全体としては大幅な減収 	
イメージング材料	<ul style="list-style-type: none"> ・プリンター向け材料の需要が徐々に回復したことにより、大幅な増収 	
色素材料	<ul style="list-style-type: none"> ・アルミ着色用染料でスマートフォン向けの販売が増加したものの、文具向け染料等の需要がコロナ禍の影響で引き続き減少し、前年同期並み 	



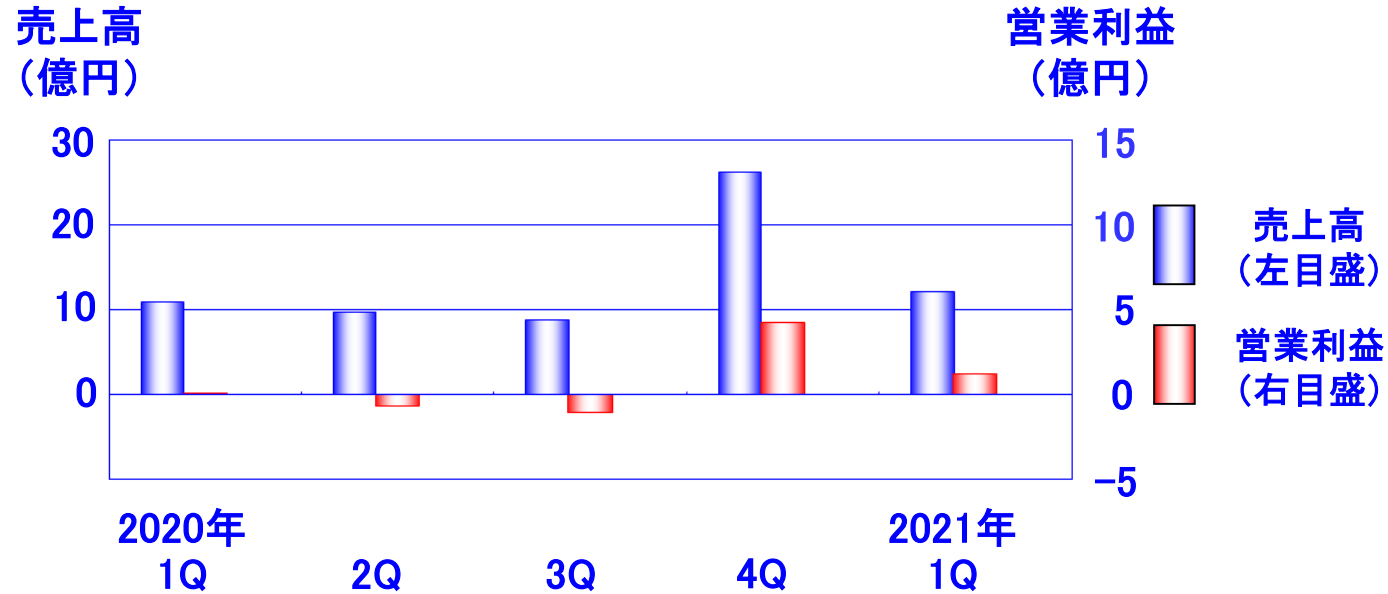
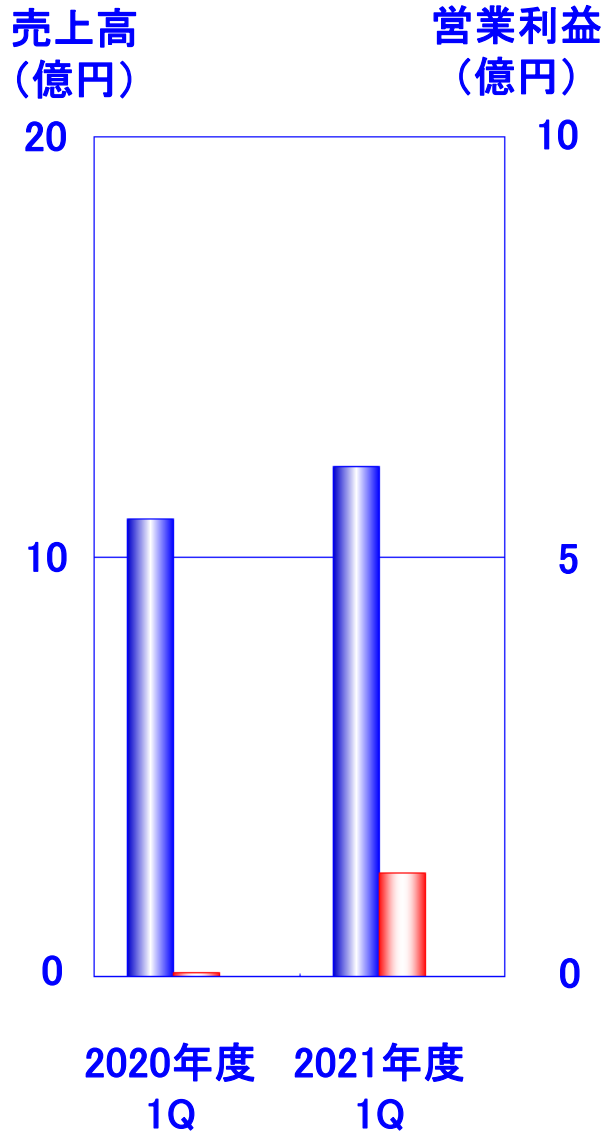
樹脂材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ウレタン原料は原材料の高騰に伴う値上げや、タイヤ用接着剤はコロナ禍からの需要回復等に伴い、大幅な増収 	↗
建築材料	<ul style="list-style-type: none"> ・特に防水工事向けで、前年度のコロナ禍での工事の延期や中止等から回復し、大幅な増収 	↗
特殊化学品	<ul style="list-style-type: none"> ・競争激化に伴う医薬向けの減少はあるものの、剥離剤向け等で需要が好調に推移したことから、大幅な増収 	↗



過酸化水素及び誘導品（※）

- 過酸化水素誘導品は、飲料ボトル洗浄向けや内視鏡除菌向けがコロナ禍での需要減から回復したものの、衣料用漂白剤や家庭用洗浄剤向けで一部設備の制約による生産量の落ち込みにより、前年同期並み。
- 一方で、過酸化水素は、紙パルプ向け等の需要がコロナ禍から回復したことに加え、工業薬品向けで半導体市場を中心に需要が好調に推移したことから、増収

※過炭酸ナトリウム、過酢酸等



アグロサイエンス

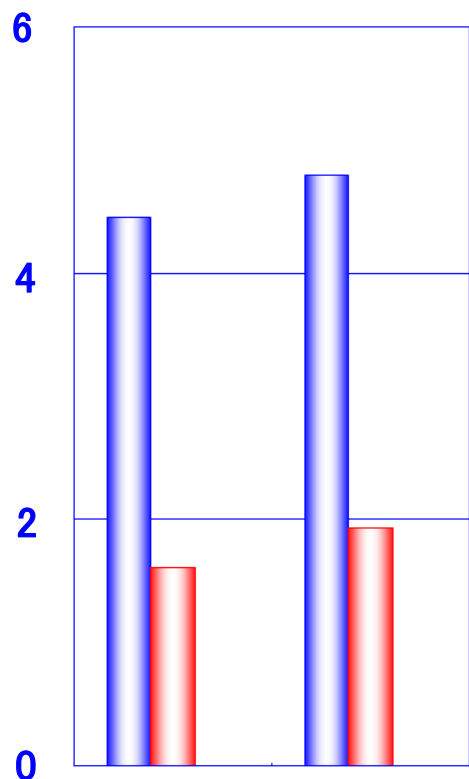
- ・ゴルフ場向けは顧客での在庫調整等により大幅に減少したが、家庭園芸向け除草剤の需要が引き続き拡大しており、増収

売上高
(億円)

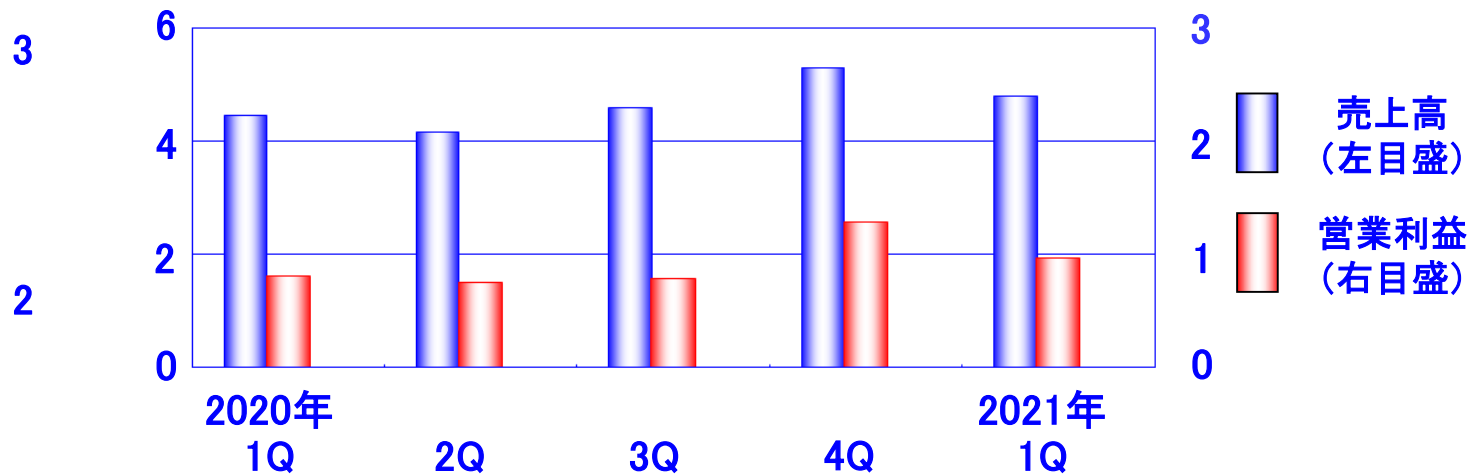
営業利益
(億円)

売上高
(億円)

営業利益
(億円)



2020年度 1Q 2021年度 1Q



物流関連 ・コロナ禍からの経済活動再開に伴い、輸出の取り扱い量が増加し、増収